

防災地質研究所ニュースレター

2018.04

§ 新燃岳再噴火

3月1日から霧島連山新燃岳の活動が再び活発化しました。

以降も激しい噴火による降灰や火山性地震などがあり、現在ではだいぶ落ち着いています。

高い時の噴煙の高さは4500mになり、降灰に慣れない周辺地域には様々な影響もあります。

新燃岳の噴火は2017年10月17日以来のもので、2011年の噴火が約300年ぶりの噴火だったようです。今回もそれに続いている噴火とみられ、噴火警戒レベルは3、警戒範囲は半径4kmとなっています。

噴石の飛散や、火砕流、土石流の恐れがあり、これからも油断せず警戒が必要です。

私達の住む鹿児島県には活発な桜島もあり、噴火には慣れっここではありますが、常に先のわからない危険と隣り合わせという認識も忘れてはならないと思います。

防災地質研究所では、これらの火山や地質の研究、アドバイスをを行い、また鹿児島県の防災ドクターとして機能していきます。



※写真は毎日新聞より

§ 始良カルデラについて

皆さんは始良カルデラをご存知でしょうか？桜島だけが火山そのものと思っていられる方も多いと思いますが、実は桜島は突出した噴火口で、鹿児島湾自体が実は巨大な噴火口なのです。桜島を南端とする鹿児島湾の北半分は巨大な噴火口であり、通称「始良（あいら）カルデラ」と呼ばれます。これは東西23キロ、南北17キロに渡り、噴火すれば、広大な地域に壊滅的な被害をもたらします。この噴火は「破局的噴火」と呼ばれていますが、その噴火予知は進んではいません。

始良カルデラは昭和18年に発見されたのですが、戦時下ということもあってあまり世間には知られてきませんでした。しかし、これまでの研究によると約2万9千年前に始良カ

ルデラの大噴火が起きたことが分かっています。その被害は九州から関西まであらゆる生物等が全滅し、関東や東北まで健康被害等の影響があるとも言われます。

このような破局的噴火は1万年に1度とは言われていますが、いつ起こっても不思議ではありません。鹿児島県に住んでいる私たちは常にそういう危険も認識しておく必要があります。

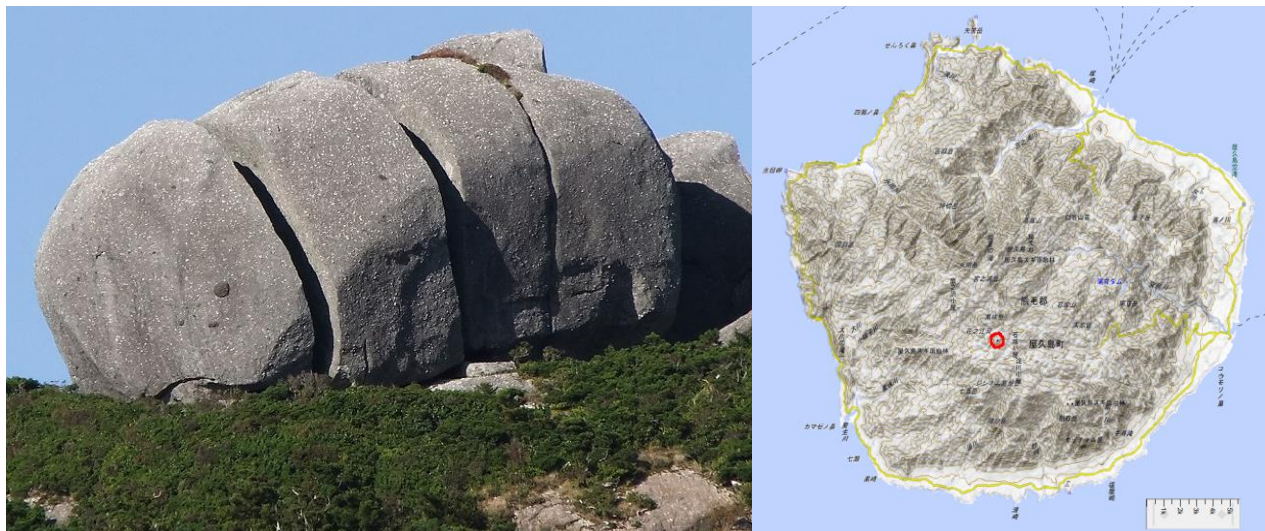
東北、熊本の震災等もそうですが、災害は他人ごとではなく、いつ自分たちの身に降りかかってくるか全くわかりません。

様々な情報を研究し、そのような知識を伝え、皆様の安全、安心な生活を目指し日々研究して参ります。

コラム

日本の奇岩百景 その5

今回も、引き続き屋久島の奇岩をご紹介します。
 この岩は通称「豆腐岩」と言われています。
 豆腐を盾に輪切りにしたような花崗岩の巨石です。
 場所は高盤山 1711m のほぼ頂上にあります。
 屋久島には他にもたくさんの巨石を見ることができますよ。



株式会社 防災地質研究所
 〒892-0816 鹿児島市山下町 12-8-405
 Tel & Fax : 099-239-6122 Email : info@dpgi.jp
 URL : <http://www.dpgi.jp/>